

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：33605

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2021

課題番号：19K14332

研究課題名（和文）卒前・卒後のシームレスな教育体制を目指した助産師のマイルストーン指標の開発と検証

研究課題名（英文）Development and verification of midwifery milestone indicators for a seamless education system from pre-graduation to post-graduation

研究代表者

上原 明子 (Uehara, Akiko)

清泉女学院大学・看護学部・講師

研究者番号：00700999

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、助産師のコンピテンシー獲得段階の検証に基づき、マイルストーン指標を開発し、助産師養成課程における卒業時のマイルストーンを設定することを目的とした。助産師を対象として、コンピテンシー獲得段階について横断調査を行った。その結果、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における助産師のコンピテンシーは助産業務経験6-7年目で「一人前」となった。しかし、ウイメンズヘルスケアや助産管理の実践能力の獲得は「初心者」から「新人」であり、難易度の高いコンピテンシーであることが示唆された。難易度の高いコンピテンシーに対しては特に、卒前から卒後にかけて段階的に能力強化することが求められる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで助産師のコンピテンシー獲得に至る段階を調査した研究はなく、本研究成果は卒前と卒後の助産師教育をつなぐ教育のあり方を考察するデータを提示することができた。また、本研究において、現在示されているコンピテンシーの中には、難易度が高く、特殊なコンピテンシーが含まれていることが示唆された。このことは、卒前および卒後の助産師教育を通じて、助産師の能力開発をしていく上での課題を提示することができたといえる。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to develop a milestone index based on the verification of the midwifery competency acquisition stage and set a milestone at the time of graduation from the midwifery training course. To this end, a cross-sectional survey on the stage of competency acquisition was conducted with midwives. The study's findings revealed that midwives' had "full-fledged" competency during the pregnancy, delivery, puerperium, and neonatal period in the 6th and 7th years of midwifery. However, the stage of acquisition of practical skills in women's health care and midwifery management is from "beginners" to "newcomers," suggesting that the competency is highly difficult to acquire. Therefore, the competency must be gradually strengthened from pre-graduation to post-graduation.

研究分野：医療者教育

キーワード：コンピテンシー コンピテンシー基盤型教育 マイルストーン 助産実践能力 助産師教育 実践能力
医療者教育

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

助産師養成課程における学修成果と卒後の臨床で求められる実践能力の乖離が指摘されている(日本看護協会、2015)。たとえば、出産に関連して発症した重度脳性まひの子どもとその家族への補償を行う産科医療補償制度(2018)の報告によると、補償の分析対象事例に関わった助産師のうち、34.6%が経験年数5年未満であった。こうした周産期医療の安全管理の観点から、助産師の実践能力強化に向けた卒前・卒後をつなぐシームレスな教育体制の構築が喫緊の課題である。

助産師養成課程において実践能力を強化していく試みとして、研究代表者はこれまでに学修目標の整理や評価指標の開発を試みてきた(上原ら、2017; 上原ら、2018)。しかし、設定する学修目標と助産師に必須の実践能力として示されているコア・コンピテンシー(日本助産師会、2012)の獲得段階との順次性を明らかにできていなかった。コンピテンシー基盤型教育では、コンピテンシー獲得段階を示すマイルストーンに沿った評価が重要となる。だが、これまで助産師のコア・コンピテンシー獲得段階は検証されておらず、獲得に至るまでの指標であるマイルストーンを考慮したモデル・コアカリキュラムは提示されていない。卒前から卒後に向けて効果的に実践能力を強化していくためには、助産師に必須な実践能力として示されるコア・コンピテンシーの獲得段階を踏まえたカリキュラム設計が必須である。

2. 研究の目的

本研究の主たる目的は、「助産師のコア・コンピテンシー獲得段階の検証にもとづきマイルストーン指標を開発し、助産師養成課程における卒業時のマイルストーンを設定すること」とした。この目的を基盤として、研究期間の3年間で以下の小目的を設定した。

小目的 A. 助産師のコア・コンピテンシー獲得段階を量的および質的に明らかにする。

小目的 B. エキスパート調査を通じて、コンピテンシー獲得段階の妥当性を検討する。

しかし、研究期間中に発生した新型コロナウイルス感染症のパンデミックに伴い、研究の実現可能性を考慮して、本研究では、小目的 A に主眼をおいて研究を行った。

3. 研究の方法

研究デザインは、混合研究法の収斂デザインを用いた。分娩取扱い施設の助産師 394 名を対象として横断調査を実施した。横断調査と並行して、インタビューへの協力者を募り、インタビュー調査を行った。さらに、教育担当者へのインタビュー調査を実施した。

横断調査における調査項目は、コンピテンシー(公益社団法人日本助産師会、2010)の一部を改変した全 59 項目に対する獲得段階(未獲得:0点、初心者:1点、新人:2点、一人前:3点、中堅:4点、達人:5点)の自己評価、属性、経験状況とした。分析は、就労施設別の属性比較、および各コンピテンシーについて項目分析と探索的因子分析を行った。助産業務経験年数別に、各因子の合計得点(中央値)を算出し、獲得段階の位置を確認した。統計解析ソフトは、IMB SPSS Statistics version25 を用いて、有意水準 5%未満とした。

助産師を対象としたインタビュー調査では、半構成的インタビューを実施し、「助産師として成長したと思えたときやその出来事、具体的な時期、今後さらに助産師として成長したいと思うこと」について尋ねた。教育担当者へのインタビュー調査においても半構成的インタビューを実施し、「これまでみてきた新人助産師が、助産師として成長していった過程について、成長の機

会となっている出来事」について尋ねた。本研究は清泉女学院大学研究倫理委員会の承認を得て実施した(2019K005)。

4. 研究成果

横断調査については、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる影響を受け、データ収集期間を延長した。最終的には394名の助産師に配布し、163名より回収した(回収率41.4%)。そのうち、助産師のコンピテンシーに対する未回答項目があるものを除く146名を分析対象とした(有効回収率37.1%)。助産師を対象としたインタビュー調査は、13名に対して実施した。教育担当者へのインタビュー調査では、10名より研究参加の協力を得た。

研究期間中には、主として横断調査による研究成果をまとめた。163名より回収し146名を分析対象とした。112名(76.7%)が病院で就労し、全体の助産業務経験年数の中央値は10.0年、職位を除く就労施設間の属性に有意差はなかった。項目分析で床効果を示した3項目を除く56項目中50項目を因子として採用した。各因子全体の平均値(中央値)は、第1因子【妊娠期の実践能力】26.7(24.0)、第2因子【ウィメンズヘルスケアの実践能力】15.3(13.0)、第3因子【プロフェッショナリズム】30.5(30.0)、第4因子【分娩期の実践能力】16.8(16.0)、第5因子【産褥期・新生児期の実践能力】27.0(27.0)、第6因子【助産管理の実践能力】27.6(28.0)であった。第1、3、4、5因子の中央値は、いずれも「一人前」から「中堅」の間に位置していたが、第2因子は「初心者」から「新人」の間に、第6因子は、「新人」から「一人前」の間に位置していた。第1、4、5因子では、助産業務経験年数6-7年目以降で各経験年数における得点の中央値が全体の中央値を上回り、「一人前」から「中堅」の間を推移していた。これらの研究成果については、以下に示す学会発表を行った。

<学会発表>

上原明子、浅田義和(2021). 助産師のマイルストーン指標開発に向けた試み - コア・コンピテンシー自己評価段階 - . 日本教育工学会 2021年春季全国大会(第38回大会). 185-186. (オンライン開催).

上原明子(2021) 助産師のコア・コンピテンシーの構成要素に関する検討. 第53回日本医学教育学会大会. (オンライン開催).

Uehara A., and Asada Y. (2021). Using Self-Evaluation of Essential Midwives' Competencies in Japan to Create Milestones: A Quantitative Study. The Association for Medical Education in Europe(AMEE2021). (オンライン開催).

上原明子、浅田義和(2021). 助産師のマイルストーン指標の検討: 助産師外来・院内助産経験別にみた比較. 第24回長野県母子衛生学会. (現地開催).

これらの結果から、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期におけるコンピテンシーでは、臨床経験6-7年目が1つのマイルストーン指標になり得ること示唆された。この時期を見据えた卒前・卒後教育を整備していく重要性が考えられた。一方で、現在示されている助産師のコンピテンシーの中には、助産師にとって特殊で獲得しにくいコンピテンシーがあり、卒前から卒後にかけて段階的に能力開発していくことが必要であることが示唆された。

なお、現在、これらの研究成果について論文投稿を準備しているとともに、質的データについても分析を進めており、今後、結果を収斂させていく予定である。

以上

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 上原明子、浅田義和
2. 発表標題 助産師のマイルストーン指標開発に向けた試み
3. 学会等名 日本教育工学会 2021年春季全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上原明子
2. 発表標題 助産師のコア・コンピテンシーの構成要素に関する検討
3. 学会等名 第53回日本医学教育大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Uehara Akiko, Asada Yoshikazu
2. 発表標題 Using Self-Evaluation of Essential Midwives' Competencies in Japan to Create Milestones: A Quantitative Study
3. 学会等名 The Association for Medical Education in Europe (AMEE) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上原明子、浅田義和
2. 発表標題 産師のマイルストーン指標の検討：助産師外来・院内助産経験別にみた比較
3. 学会等名 第24回長野県母子衛生学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------